

10/26
日

地域おこし協力隊からのお知らせ

やなせたかしが育ったまち“ごめん”を盛り上げる!

10:00~15:00

ごめんteteマルシェ vol.20

ハロウィン
コスプレイベントも
同日開催

ハンドメイド雑貨や、キッチンカーによるテイクアウトグルメなど盛りだくさん!
今回は、20回目の開催を記念してガラポン抽選を行います。会場近接の後免町商店街~やなせライオン公園では、【ごめん秋のパンまつり】【軽トラ市】が同日開催!
ぜひお誘い合わせの上ご来場ください♪

■ 場所/クラフト: 商工会館3階

フード: 海洋堂SpaceFactoryなんこく横広場・商工会館入口前

■ 駐車場/土曜市 ■ 入場料/無料

■ ほか/小雨決行(荒天中止)

フードはテイクアウトのみの販売です。会場内での飲食はお控えください。
会場にごみ箱はありませんので、ごみはお持ち帰りください。

◎ガラポン抽選 《参加は1人1回まで》

「ごめんく」「南国市観光案内所」「商工会館 3階」にあるキーワードを集めて、豪華景品が当たるガラポン抽選に参加しよう! ※景品がなくなり次第終了

■ 問い合わせ/ごめん teteマルシェ実行委員会(担当: 濱岡) ☎088-881-2675



ごめん teteマルシェ
Instagram



公式サイト

9:00~13:30

ごめん秋のパンまつり

連続テレビ小説「あんばん」にちなんで、「ごめん」に人気のパン屋さんが大集合! 噴水を見ながらオシャレカフェ気分を楽しみませんか?

■ 場所/やなせライオン公園
(後免町1丁目6-23)

■ 出店者(予定)

grin・coco
コミベ・カリ
BlueBird
Chimney ※11時出店
THAT DEPENS
Herb House

■ 主催・問い合わせ

地域おこし協力隊 藤井
☎088-881-2675



9:00~13:00

第44回地産地消 ごめんの軽トラ市

軽トラに載せた商品を、歩行者天国にした後免町商店街で販売します。

■ 場所/後免町商店街(中町)、後免町防災コミュニティセンター広場

■ 内容/地場産品の販売、ゴメンジャーショー、スタンプラリー、ダンスショー

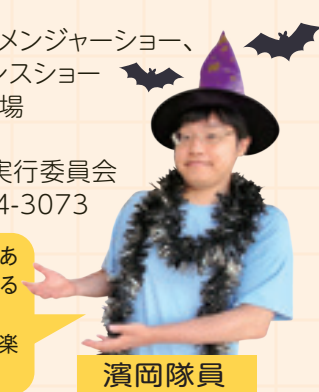
■ 駐車場/南国市役所北駐車場

■ 問い合わせ

地産地消ごめんの軽トラ市実行委員会事務局(商工会) ☎088-864-3073

南国市で「こんな素敵なイベントがあるんだ」と多くの方に楽しんでもらえるよう準備を進めています。
当日は皆さまにお会いできるのを楽しみにしています★

濱岡隊員



GomenC

ごめんく

どなたでも無料でご利用いただけるワークスペースです

■ 場所 | 後免町1-7-7

■ 開館日時 | 水・金・土・日 9:15~17:00

※貸しスペースと備品の貸し出しは16:15まで

■ 定休日 | 月・火 ※臨時休業あり

■ 貸出備品 | ミシン、アイロン、UVライトなど

■ 使用用途 | ものづくりなどの創作活動

☎ 088-881-2675

Instagramも要チェック!
@gomenckochi



利用説明がありますので、初めて利用される方は一度ご来館をお願いします。また利用には事前の予約が必要です。



写真提供: やなせスタジオ

第16回
ON AIR

ごめん ありがとう情報局

読めばまた会える、やなせ夫妻

やなせたかし先生と妻・暢さんの人生をモデルに描く連続テレビ小説「あんばん」の放送が早くも最終回を迎えました。あつという間の半年でしたね。

ドラマでは史実とフィクションが入り交じり、描かれていないエピソードも数多くあります。放送を見届けて「あんばんロス」を感じている方、やなせ先生をもっと知りたくなった方に読んでもらいたい2冊をご紹介します。

~「人生は喜ばせごっこ」が胸に響く一冊~

人生なんて夢だけど(フレーベル館/2005年刊) 著: やなせたかし

中日新聞・東京新聞・高知新聞に連載されたやなせ先生の自伝「この道」を加筆修正して、発行された単行本です。やなせ先生がこの原稿を書き始めたのは、85歳の時。生まれ故郷やご先祖のこと、ごめん町で育った日々、戦争、暢さんとの出会いと結婚、マルチクリエイターな仕事ぶり、暢さんの病气、晩年の「ごめんしょうが飴」や「ありがとう駅」のエピソードまでつづられた、まさに「自伝」です。

85歳を過ぎて書かれたからだとは思いますが、何事も達観したやなせ先生の言葉や生き方は、自虐的でありながら、とても前向きでユニークたっぷり。読み始めたら止まりません! ごめん町のこともたくさん語られています。



~家族のように見守った著者だけが知るやなせ先生~

やなせたかし先生のしっぽ(小学館/2025年刊) 著: 越尾正子

著者は、やなせ先生の秘書であり、現在は(株)やなせスタジオ代表の越尾正子さん。元々は暢さんのお茶のお弟子さんで、やなせスタジオの経理をしていた暢さんの妹・瑛さんの後任として誘われ、やなせ先生73歳、暢さん74歳の時に入社しました。この時すでに乳がんの手術をしていた暢さんは、自分が亡くなった後のことを考え、やなせ先生のことを託せる人を探していました。「辞めないでね」そう言われたそうです。そして実際に暢さんが亡くなった後、越尾さんはやなせ先生の生活全般を支えました。

本書には、やなせ先生の仕事のことでなく、暢さんから聞いたやなせ先生のこと、やなせ先生から聞いた暢さんのことや家族のこと、弟・千尋さんの戦死、そして、やなせ先生の病气や入院、最期の瞬間までがつづられています。

「先生、生き切りましたね」と声をかけた越尾さんが見たやなせ夫妻の人生。涙なしには読めない一冊です。



秋の夜長、「あんばんロス」を埋めてくれる2冊を手にとってみませんか? 読み進めるうちに連続テレビ小説「あんばん」の映像がよみがえり、ドラマでは描き切れなかったやなせ夫妻の歩みを知ることができます。

どんなときも前向きでユーモアを忘れなかったやなせ先生の生き方に触れ、自分もこんなふうになりたい、「人生は喜ばせごっこ」を少しでも体現できる人間になりたい、と感じました。皆さんはどうですか? 本情報局の感想とともに、ドラマや本の感想もぜひお聞かせください。

図書館でも
借りられます

